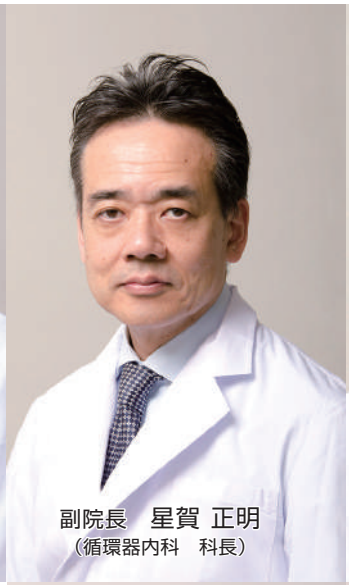
大阪医科薬科大学病院
OMPU
MIZUKI
volume 54
医療連携室ニュース「みずき」
2024 July

副院長　芦田 明
（小児科　科長）

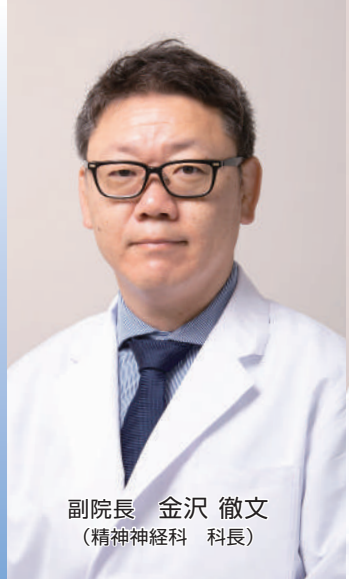

副院長　星賀 正明
（循環器内科　科長）

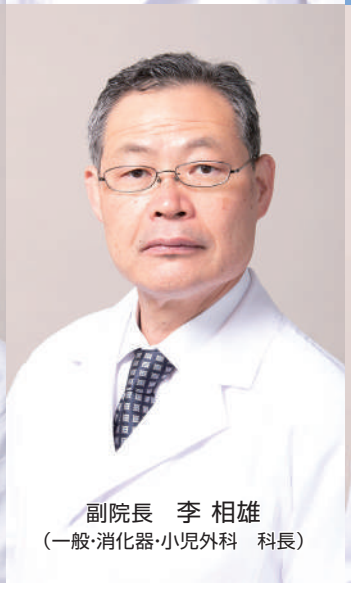
病院長
広域医療連携センター センター長
勝間田 敬弘

2024年度新体制スタート

CONTENTS

新任科長のご紹介
特集①「進行直腸癌」
特集②「ものわすれ外来」
広域医療連携センターからのお知らせ


副院長　金沢 徹文
（精神神経科　科長）


副院長　李 相雄
（一般・消化器・小児外科　科長）

副院長　鰐渕 昌彦
（脳神経外科・脳血管内治療科　科長）

病院長ご挨拶

2024年4月1日に病院長・広域医療連携センター長に就任しました。大阪医科薬科大学病院は、“コロナ禍”という社会的困難を乗り越えた後の新しい価値の創生に向けて邁進します。

来たる2025年には、病院新本館建築事業の核となるB棟が竣工、稼働します。そこでは複数の診療科が融合した臓器別・疾患別外来、初診から退院後までの一貫した受診支援、さらに診察や会計の待ち時間を短縮する機能などの、患者さんの受診をより快適にするための環境が整備されます。

医療の質は即ち医療者の質です。設備の刷新とともに、私たちは自らを見つめ直します。患者さんと真摯に向き合い、最先端の技術や知見を取り入れながら、医療を安全に提供することを決して忘れません。そして、患者さんに“寄り添う”温かい病院を目指します。

大阪医科薬科大学病院は、地域の皆様と手を携え、患者さんの健康を守るとともに、医療や社会の発展に貢献し続けます。どうぞよろしくお願いします。

勝間田 敬弘

特集①
新時代のチーム医療

「進行直腸癌」 新しい治療により「手術をしない選択肢」も　診療科の枠を超えた集学的治療を展開

濱元（はまもと） 宏喜（ひろき）
一般・消化器・小児外科
日本外科学会認定 外科専門医、
日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医、日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医
専門：大腸疾患

最新の進行直腸癌治療のご案内

進行直腸癌は手術単独では約3割が局所再発することが知られており、局所再発を抑制する目的で、放射線、抗がん剤を組み合わせて治療していきます。腫瘍の進行度や場所によって、治療方針が異なりますので、それぞれの患者さんの治療方針を外科、放射線腫瘍科、化学療法センターで話し合いながら決めていきます。

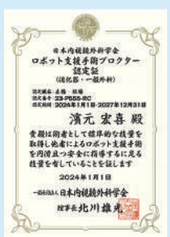
最近では、これらを**集学的治療**(**Total Neoadjuvant Therapy**;**TNT**と呼ばれています)として注目を集め、肉眼的にがんが消失した状態（臨床的完全奏効）となることがあります。

この場合、すぐに手術を行わずに慎重に経過観察を行う**「Watch and Wait療法」**を行っています。これまでは永久人工肛門となっていた患者さんでも、この治療を行い、経過をみていくことで、**約50%は3年間手術を行わずに経過を見ることが可能である**と報告されており、当院ではこの治療に放射線増感薬を使用し、より手術を回避できないかを臨床研究しています。

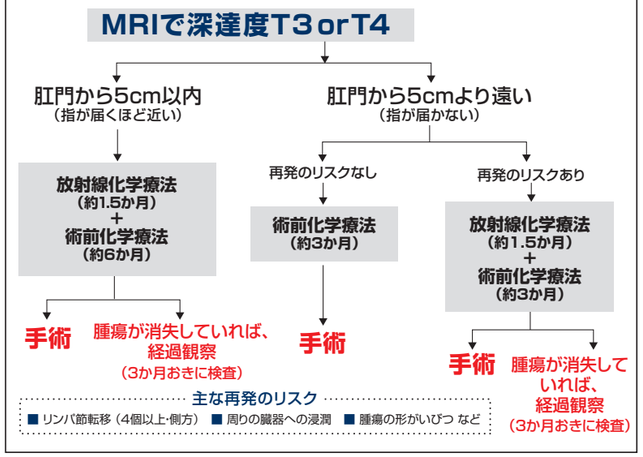
進行直腸癌の患者さんがいらっしゃれば、ご相談も含めてぜひご紹介ください。

手術をするなら負担の少ないロボット手術で

従来の腹腔鏡手術では直線的にしか動かなかった手術器具が、**ロボット手術**では人間の手首よりも広い可動域を持つことで、狭い骨盤内においても直腸癌を一つの膜に包まれた状態で切除することが可能になります。また、手振れ防止、縮尺機能（手元で6cm動かしても、お腹の中では2cmしか動かない）を備えることで、より繊細な手術が可能になります。直腸癌に対する**ロボット手術は、腹腔鏡手術よりも短期成績が良好である**ことが報告されています。**内視鏡外科学会認定の直腸・結腸プロクター取得医**である私が中心となって、積極的にロボット手術を行っています。



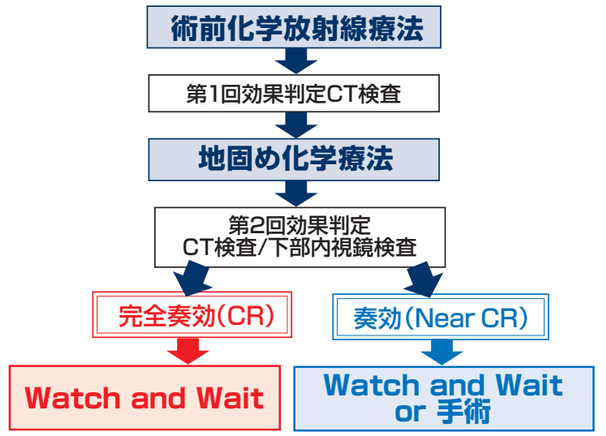
進行直腸癌の治療方針



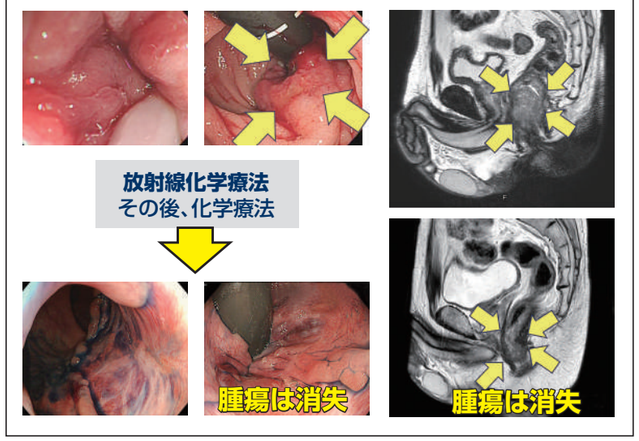
ロボット手術の利点

KORTUC（増感放射線療法）の概要

TNT（Total Neoadjuvant Therapy）の概要



TNTにより肉眼的にがんが消失した状態



山口（やまぐち） 敏史（としふみ）
化学療法センター
センター長
日本臨床腫瘍学会認定 がん薬物療法専門医、日本内科学会認定 総合内科専門医、日本消化器病学会認定 消化器病専門医
専門：がん薬物療法、新規抗がん剤

抗がん剤治療からのアプローチ

本邦における局所進行直腸癌の標準治療は手術ですが、便を貯める直腸が切除される影響で、術後に頻便が生じることや、腫瘍が肛門近くに位置する場合には人工肛門が必要となることなど、QOLの低下が問題となっています。海外では、進行下部直腸癌に対して、**TNT**が標準治療の一つとしてみなされています。**進行下部直腸癌**に対するTNTは有望な治療ストラテジーの一つとして各国で臨床試験が実施されています。こちらの治療を実施することで、完全奏効（がんの消失）が得られる可能性が高くなり、手術を回避できる可能性が高まる一方で、強力な術前治療には副作用や合併症など一定のリスクが伴います。当院では診療科を跨いだ経験豊富な医師が協力して、これらの集学的治療を安全に実施する事を心掛けています。

〈受診をご希望の方は〉

はじめに一般・消化器・小児外科の**濱元**へご紹介ください。
外来日は木・土（第1.3.5）となります。（2024年6月現在）

- **直腸診で腫瘍を触知する方**
- **“手術せず”、人工肛門を回避したい方**

このような患者さんはご紹介ください。

新保（しんぼ） 大樹（たいじゅ）
放射線腫瘍科 医長
日本医学放射線学会認定　放射線科専門医（治療）
専門：放射線治療全般（とくに骨盤部）

放射線治療からのアプローチ

KORTUC（**Kochi Oxydol-Radiation Therapy for Unresectabe Carcinomas**）は本邦で開発された増感放射線治療です。低濃度過酸化水素とヒアルロン酸を用い、抗酸化酵素を分解すると同時に酸素を供給することによって放射線治療の効果を高める現在研究段階の治療法です。放射線腫瘍科では2010年に導入し、主に乳癌や子宮頸癌を対象として300例以上に実施し、従来の放射線治療では得られないような著明な局所制御効果が確認されています。この度、新たに**直腸癌**に適応を広げました。下部進行直腸癌で**Watch and Wait 療法（手術をしない治療）**を強くご希望される患者さんを対象としています。

術前放射線化学療法を行い、消化器内科の協力により大腸内視鏡を用いて増感剤を直接腫瘍内に投与します。放射線化学療法にて癌が消失した場合はすぐに手術を行わず、慎重に経過をみます。癌が遺残している場合は、手術を受けていただく必要があります。手術前の集学的治療にKORTUCを用いることで癌が消失する可能性が高まることが期待されています。Watch and Wait療法に興味のある患者さんがございましたら、ご相談ください。

カンファレンスのメンバー

特集②

認知症「ものわすれ外来」

増加の一途をたどる認知症に対して大学病院の高度な医療を提供

このような症状の患者さんがいらっしゃったらご紹介ください

- 最近の新しい出来事が記憶できない
- 日時、曜日、時間の感覚がわからない
- さっき言ったことを忘れて同じことを何度も聞いてくる
- 物の置き場所がわからなくなる
- 人の名前が思い出せなくなった
- 道に迷って帰ってこられないことがあった
- 好きだったことや趣味に対して興味が薄れた
- 薬の管理ができなくなった
- 料理や買い物の段取りが悪くなってきた
- 仕事で間違いが増えてきた・・・など

このような症状が出れば、認知症の疑いがあります。

認知症は脳の機能が低下し、物事を記憶し判断する能力や、自分の置かれた状況を正しく理解する力が落ちることによって、それまで問題なくできていた仕事や家事や日常生活動作が徐々に行えなくなる病気です。厚生労働省の統計では認知症とその予備群を合わせると、**65歳以上の4人に1人が該当する**といわれます。認知症の中で最も多い**アルツハイマー病**をはじめ、その他にも治療法の異なる内科的な疾患やレビー小体型認知症、正常圧水頭症など様々な原因があります。

精神神経科・脳神経内科にて**早期における的確な診断**を行い、
適切な治療を提案させていただきます。

精神神経科

▶ 認知症外来

認知症外来開設

対象者 ・一般的に物忘れが気になる方
・周辺症状（怒りっぽい、徘徊など）でお困りの方

初診日 月曜日～金曜日 AM

特　徴 2泊3日の認知症検査入院を行っています

精神神経科一同

脳神経内科

▶ もの忘れ外来

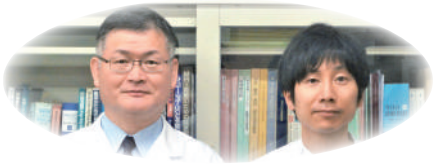
もの忘れ外来開設

対象者 ・レケンビ® 治療を希望される早期・軽症アルツハイマー病の方
・認知症を疑いまだ未診断の方

初診日 荒若 繁樹（月 第1・3AM）
中村 善胤（火AM）
（2024年6月現在）

レカネマブ（レケンビ®）治療のお知らせ

特　徴 アミロイドPETによる的確な診断をもとに、最新のレケンビ® 治療を院内完結でご提供いたします。既に多くの治療経験を有しており、ノウハウがあるので速やかに治療開始できます。適応が不明な場合でもぜひご相談ください。



※患者さんの病状により、初診と異なる診療科へ院内コンサルテーションする場合があります。
※当院で診断がつき治療を続け、状態が落ち着いた患者さんはご紹介元やフォローできる連携医療機関等で継続して治療していただくことになります。

新任科長のご紹介

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

科長

はぎのもり　しん　いち
萩森　伸一

2024年4月1日着任

4月1日付で耳鼻咽喉科・頭頸部外科の科長に就任しました。超高齢時代を迎え、増え続ける頭頸部がん診療に加え、「聴く」、「嗅ぐ」、「味わう」、「飲み込む」など生活を豊かに送る機能の維持・回復を、感覚器を扱う診療科として一層推進します。

- 趣味・特技　低山歩き、ドライブ

- 専門分野　耳科学（難聴・中耳炎・側頭骨手術）
- 資 格 等　耳鼻咽喉科専門医、日本耳科学会認定医・耳科手術指導医、日本顔面神経学会相談医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会騒音性難聴担当医・補聴器相談医、厚生労働省認定補聴器適合判定医師
- 略　　歴

1989年	3月	大阪医科大学　医学部　卒業
1989年	6月	大阪医科大学　耳鼻咽喉科　入局、臨床研修医
1992年	6月	大阪府済生会中津病院　耳鼻咽喉科　医員
1996年	10月	大阪医科大学　耳鼻咽喉科学教室　助手
1998年	8月	米国ピッツバーグ大学　耳鼻咽喉科　研究員
2000年	6月	大阪医科大学　耳鼻咽喉科学教室　学内講師
2001年	9月	大阪医科大学　耳鼻咽喉科学教室　講師
2005年	8月	大阪医科大学　耳鼻咽喉科学教室　診療助教授
2012年	12月	大阪医科大学　耳鼻咽喉科学教室　准教授
2017年	6月	大阪医科大学　耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室　専門教授
2024年	4月	大阪医科薬科大学　耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室　教授

整形外科

科長

おお　つき　しゅう へい
大槻　周平

2024年4月1日着任

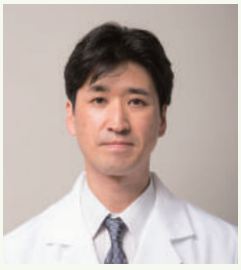
私は関節温存治療の研究を進め、新規半月板治療の開発、臨床応用を行いました。人生100年時代、スポーツ活動や生活スタイルの多様性に応えるため、運動器全般において患者さんに即した治療が求められます。その社会的ニーズに対応できる温かい心と多彩な技量を兼ね備えた若手医師の育成をします。

- 趣味・特技　ジョギング、スポーツ観戦

- 専門分野　スポーツ、膝関節外科
- 資 格 等　日本整形外科学会専門医、日本体育協会スポーツドクター
- 略　　歴

1998年	3月	大阪医科大学　医学部　卒業
1998年	4月	大阪医科大学　整形外科　入局
2001年	4月	高槻赤十字病院　整形外科
2006年	7月	スクリプス研究所（アメリカ）　研究員
2010年	4月	清仁会シミズ病院　整形外科　部長
2011年	4月	大阪医科大学　整形外科学教室　助教
2018年	10月	大阪医科大学　整形外科学教室　講師
2024年	4月	大阪医科薬科大学　整形外科学教室　教授

心臓血管外科



科長

だい もん　まさ ひろ
大門　雅広

2024年4月1日着任

大阪医科薬科大学病院に赴任して20年、臨床と教育に携わってきました。標準術式の維持・継承のみならず、ニーズが高まりつつある低侵襲手術など新しい手技も積極的に導入していきます。

- 趣味・特技　旅行、セーリング

- 専門分野　成人心臓血管外科全般
- 資 格 等　日本外科学会専門医・指導医、日本心臓血管外科専門医・修練指導者、循環器専門医
- 略　　歴

1996年	3月	京都府立医科大学　医学部　卒業
1996年	4月	京都府立医科大学付属病院　第2外科　研修医
1998年	4月	国立大阪病院　心臓血管外科　レジデント
1999年	4月	東京女子医科大学大学院博士課程　入学
2000年	4月	岡村記念病院　心臓血管外科　医員
2001年	9月	京都桂病院　心臓血管外科　医員
2004年	4月	大阪医科大学　胸部外科学教室　助手
2004年	7月	東京女子医科大学大学院博士課程　学位取得
2009年	4月	大阪医科大学　胸部外科学教室　講師
2016年	5月	大阪医科大学　胸部外科学教室　診療准教授
2021年	4月	大阪医科薬科大学　胸部外科学教室　診療准教授

広域医療連携センターからのお知らせ

入退院支援室室長就任のご挨拶

入退院支援室
室長
藤原（ふじわら） 寛子（ひろこ）

この度、入退院支援室の室長に就任いたしました藤原寛子でございます。平素は何かと医療連携にご理解とご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

入退院支援室では、患者さまの入院前から退院後までを見据えた一体的な支援をさせていただいております。2018年4月からは、PFM（Patient Flow Management）に取り組んでおります。予定入院の患者さまの状況を入院前から把握し、退院困難な問題が見つかれば解決に向けて多職種で情報を共有しています。早期に調整者が介入することで、入院期間の短縮や患者さまに寄り添った医療の提供につながると考えております。2023年5月からは患者サポートエリアを開設し、一部診療科ではありますがPFM対応のみならずオーラルケアの確認や休薬に関わる説明など、患者相談にワンストップで対応することを見据えた活動をしております。今後とも『温かい病院づくり』のスローガンに沿って活動していきたいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

『第5回 紹介医療機関と大阪医科薬科大学病院との連携強化のつどい−歯科−』 開催報告

歯科口腔外科
科長　植野 高章

歯科口腔外科
医長　真野 隆充

感染対策室
室長　小川 拓

2024年4月27日（土）グランキューブ大阪（大阪国際会議場）にて、日ごろ本院と連携いただいている医療機関さまを対象に「第5回　紹介医療機関と大阪医科薬科大学病院との連携強化のつどい−歯科−」を開催しました。

院外より62施設66名の方にご参加いただきました。まず、歯科口腔外科　科長　植野高章から開会挨拶のあと、医長 真野隆充より「病診連携について」、感染対策室 室長 小川拓より「歯科における新型コロナウイルス感染対策−過去と今と未来−」の題で歯科診療に役立てていただける講演を行いました。参加者の先生方は非常に熱心に耳を傾けてくださいました。

引き続き実施された懇親会はコロナの影響で6年ぶりの開催となりましたが、感染拡大の防止に細心の注意を払いつつ、和やかな場をもつことができました。

お忙しい中ご出席いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。

医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30〜20:00　土曜日／8:30〜12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能（休診時も含む）。
但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室
〒569-8686　大阪府高槻市大学町2-7
● TEL.072-683-1221（大代表）内線2308
● TEL.072-684-6338（医療連携室直通）

FAX **送信先 FAX 072-684-6339**

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください。